

「被災地からの報告 震災から1ヶ月までの様子」

栃内第二病院

山舘 圭子

私の住んでいる盛岡では、3月11日の震災後、停電、建物被害が少しあったものの、比較的早くから日常生活を取り戻しました。一方で、沿岸地区の被災の様子は、地元にいるものでさえ把握することが難しく、何もできないもどかしさを感じながら日々を過ごしていました。

外部からの応援は行政や自治体が把握し、それゆえに細かなニーズ対応が遅れている岩手、早々からNPOなどの団体が入り、ニーズに応じた支援を展開した宮城。一方で、災害から2ヶ月が経ち、様々な団体が撤退する中、地元での支援が少しずつ見えてきている岩手、地元での支援に繋がらないケースが出てきている宮城。それぞれが様々な問題を抱えながらも、前に向かって歩みを続けています。

私は、4月には宮城県のNPO法人ほっぷの森(仙台)とみやぎ連携復興センターの訪問、5月には岩手県臨床心理士会を通じて日赤チームと共にこころのケア活動に参加させていただきました。それに加え、NPO法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴ(盛岡)、日々の病院臨床などを通じて得た情報を会員の皆様にお伝えすることで、高次脳機能障害を抱える方とご家族の日々の臨床や支援に役立てていただけたらと願っております。

【災害から1ヶ月の避難所での様子】

避難所にいた高次脳機能障がいの子息さんとご家族のケースです。避難所では、高齢者が多く、若い人が率先して働く中、周囲からは、「他の人は働いているのに、なぜあの息子さんは何もしないのか?」と言われ、居づらくなり自宅に戻ったそうです。ご家族は、日頃から息子さんの障害について、ご近所に話していたものの、障害を理解してもらう事の難しさを改めて感じたそうです。また、自宅に帰った後も、家族だけで抱えこんでおられるとの話を聞きました。

当初の避難所では、物資不足や寒さ、更には感染症など次々と問題が生じ、各々の障害に応じた対応をする余裕もない状況でした。しかしながら、ある保健師さんは、「この方は、それができないの。わかって」と周囲に理解を呼びかけることで、トラブルになるのを防いだり、その方の状況を見て、早期にご家族、ご本人に理解してもらい、適切な所に繋げたケースもありました。

【高次脳機能障がい者の通所先】

就労支援センター「ほっぷ」(NPO法人ほっぷの森)、地域活動支援センター「チャレンジド・カフェ」(NPO法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴ)は、建物そのものの被害はなかったものの、ライフラインが復旧するのに数日かかり、ガソリンや食品などの物資不

足もしばらく続きました。

一方、就労継続支援事業所 A 型 レストラン「びすた〜り」(NPO 法人ほっぶの森)は、建物の一部と店内のピアノも損壊し、通常営業ができなくなりました。

特にほっぶの森のスタッフの方々は、ガスが使えない、電話が通じない等に加え、ご自宅の片付けやご親戚の安否確認等、それぞれが大変な状況にも関わらず、電話が通じない通所者やその卒業生には、支援物資を持って 1 軒 1 軒回っていました。同様に、イーハトーヴでは、全国の家族会から集まった救援物資を宮古支部（被災地）に届け、宮古支部では、会員 1 軒、1 軒に物資を持って回っていました。

さらには、各々の施設では、震災 1 週間後より通所を再開し、いち早く日常を取り戻すことにも力を注いでいました。

[ほっぶの森・イーハトーヴ等での当事者及びご家族の様子]

当事者の多くは、TV を見て「どうして、こんなことになっているの?」、「今日はどうして行かないの?」と何度も聞き、震災があったことや普段と違うことは何となくわかっているものの、急性ストレス反応は見られず、むしろすることがない（行き場がない）事がストレスのようでした。しかしながら、社会的行動障害の一部の方（抑うつやパニックなど）は、不安が増大し、混乱したり、パニックを起こす方もいました。

一方、ご家族は、ガソリンや物資不足による生活不安、たび重なる余震、TV から流れてくる被災地の様子などを見て、多くの方は、不眠などの過覚醒、涙もろくなる等、急性ストレス反応を示していました。

急性ストレス反応を呈しながらも生活対応やご親戚や友人などの安否確認に追われるご家族と、マイペースな当事者とのギャップが、ご家族のストレスとなっているようでした。この時期、多くのご家族が「大変なのは本人ではなく家族。早く居場所を再開してくれないとお互い到大変」と一様に話していました。

[感想]

岩手に家族会がなく地域支援も乏しかった頃、病院を退院した後の当事者たちは、行き場がなく、ご家族も周囲に理解されない思いを抱きながら苦しんでおられました。震災により、行き場を一時的にでも失くした当事者やご家族の姿は、その時の彼らの姿と重なりました。一方で、家族会や支援センター等、支えあえる仲間たちや支援者の存在はとても大きいと改めて感じました。私達は、これから地元の復興に向け、高次脳機能障害を抱える当事者とそのご家族が、安心して地域で生活できるよう地域に根ざした支援の取り組みを少しずつ進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、日本全国の皆様の温かい励ましとご支援に感謝を申し上げますと共に、これからも末永く、ご支援・ご指導いただけますよう心よりお願い申し上げます。